

- 14:40~15:00 討43 マイクロインジェクション法を用いる誘導結合プラズマ発光分析法による鉄鋼及び高純度シリコン中微量成分の定量…………… A 163
川鉄 鉄鋼研 ○岡野 輝雄, 藤本 京子, 松村 泰治
- 15:00~15:10 討論
- 15:10~15:20 休憩
- 15:20~15:40 討44 誘導結合プラズマ質量分析法の金属中極微量分析への適用…………… A 167
コベルコ科研 河村 恒夫
- 15:40~15:50 討論
- 15:50~16:10 討45 グロー放電質量分析法の金属試料中極微量元素分析への適用…………… A 171
新日鉄 分析研セ ○千葉 光一, 小野 昭紘, 佐伯 正夫
- 16:10~16:20 討論
- 16:20~16:40 討46 放射光X線分析…………… A 175
東大工 合志 陽一
- 16:40~16:50 討論
- 16:50~17:10 討47 高速イオンビームによる微量分析…………… A 179
名大工 雨宮 進
- 17:10~17:20 討論
- 17:20~17:30 座長挨拶

原稿募集

「鉄 と 鋼」特 集 号

テーマ “製鉄技術の拡大と高度化”

原稿締切日 昭和 62 年 3 月 10 日 (火)

昭和 62 年 11 月号 (第 73 年第 15 号) に製鉄特集号を企画しております。鉄鋼業の低成長時代といわれるようになってから、かなりの期間が経過し、この間、製鉄分野においては、省エネルギー化ならびに多様化するエネルギー事情に対応するため幅広い操業法を経験し、技術の拡大と高度化が達成されております。特に、原料分野においては、ミニベレット技術、高被還元性焼結鉱の製造、非焼成原料の開発、新塊成法、コークスの分野では、コークスの反応性や強度、CDQ 技術、微粉炭や水スラリーの利用、高炉においては、超低シリコン操業、装入物分布制御あるいはトータルシステムとしての管理技術、数学的モデルの活用等に進歩がみられます。一方、高炉法に対抗する直接製鉄法や熔融還元法、さらには、フェロアロイやチタン等鉄以外の金属製錬の研究への広がりもみられます。また、観察、測定技術の面からは、X線断層撮影法、画像処理技術、その他新しいセンサーを活用した炉内計測の研究報告が出されるようになってきております。

そこで、今回は、製鉄全般にわたる技術の高度化および広範囲化という観点から、原料、製鉄のプロセスシステム、新製錬法、測定技術などを中心とした基礎科学的ならびに応用技術的研究の特集号にしたいと考えております。論文、技術報告の両分野に多数御投稿下さいますことを期待しております。

(1) 原稿締切日 昭和 61 年 3 月 10 日 (火)

(2) 発行 鉄と鋼 第 73 年第 15 号 (昭和 62 年 11 月号)

(3) 原稿枚数 論文および技術報告とも刷り上り 8 ページ以内 (表, 図, 写真を含めて本会所定原稿用紙 40 枚以内)

(注) ・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。

・投稿された原稿は編集委員会において審査されます。

(4) 問い合わせ・原稿送付先

〒 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3F

(社) 日本鉄鋼協会編集課「製鉄特集号」係

電話 03-279-6021 (代)

(注) 投稿時、原稿用紙に「製鉄特集号」と朱書して下さい。